

「指差喚呼での安全誘導」

指差喚呼とは、危険予知活動の一環として、安全確認等の目的で、指で差しその状況を声に出して確認することです。

※同類語として指差呼称・指差称呼・指差唱呼・指差確認称呼等がありますが当社は指差喚呼で統一



1. 目で見て
2. 腕を伸ばして指で差し
3. 口を開き声に出し「〇〇〇、よし！」
4. 耳で自分の声を聞く

《すべての行動を本当に意識して実行し、決して形骸化にならないように》

『右よし 左よし 前よし 後よし
上よし 下よし 自分ヨシ!』

『安全の見える化・見せる化』

労働災害の更なる減少のため安全衛生活動の一環として『安全の見える化』の普及促進に努めています。これは現場にひそむ危険を写真・文字などで、目で見えるようにすることにより、効果的に安全活動に取り組むことです。

人間は五感から外部情報を入手します。その8割以上は目(視覚)からで大半を占めています。耳(聴覚)も当然大切ですが、一番は見ることにより危険を意識することです。

更に指差喚呼を実施することは、自分の身を守るだけでなく、『安全の見せる化』にもなります。これを行うことにより周囲の人に(得意先・第三者等)に安全に対する意識が高いことをアピール(営業)することが出来て信用もされます。

まずは現場での行動として、ゲート出入誘導や道路横断時等は声を出しての指差し確認(左右確認)を確実にを行い事故防止に努めて下さい。 **ご安全に!**